

中西 だいすけ

2015年
1月号発行者：
中西大輔と鈴鹿を育てる会
鈴鹿市南若松町296-12
TEL&FAX: 059-368-1110

議会・議員活動報告

ホームページ <http://www.daisuke-nakanishi.net/>

Eメール宛先 daisuke.nakanishi@gmail.com

将来都市像
みんなで創り 育み 成長し
みんなに愛され選ばれるまち すずか将来都市像と柱
新たな中長期計画▶ 地域包括ケアの参考成
厚労省資料参考の考え方この計画は、すべて私たち
の生活に関わります。地域づくり
など私たちの自治意識づくりと取
り組みに、現役世代と若い世代の
参加がより重要になります。10年
後、20年後を考えましょう。

将来都市像を支えるまちづくりの柱

① 大切な命と暮らしを
守るまち すずか「将来都市像を支えるまちづくりの柱」の趣旨
・かけがえのない市民の生命、財産、暮らしを、災害や事件、事故などの危機から守るために取組② 子どもの未来を創り
豊かな文化を育むまち すずか・子どもを安心して産み、育てることができる環境及び子どもが安心して健全に育つ環境を整えるなど次世代を育成するための取り組み
・市民が文化、スポーツ、生涯学習を通して精神的にも身体的にも豊かに暮らすための取組

③ みんなが輝き 健康で笑顔があふれるまち すずか

・高齢者や障がい者などすべての市民が自立し、夢や生きがいを持ち、いきいきと暮らすための取組
・市民の健康を増進し守るための取組④ 自然と共生し 快適な生活環境を
つくるまち すずか

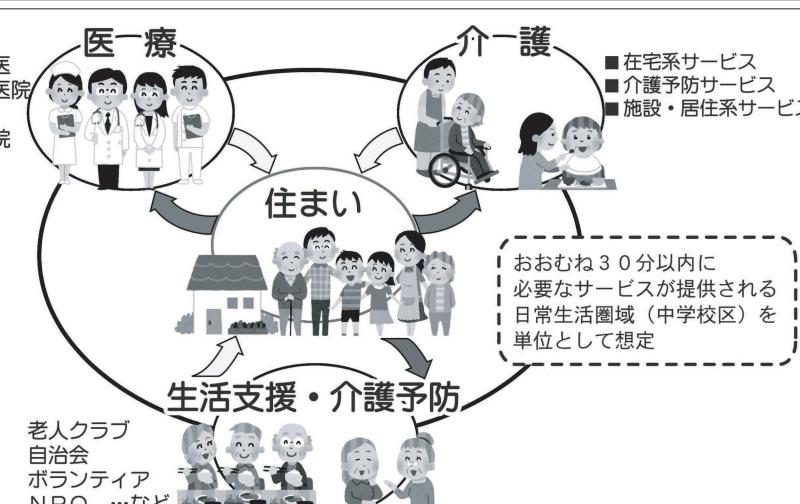
・自然環境の保全、生活衛生の向上、都市基盤の整備など、市民が良好な生活環境のもとで、快適に暮らすための取組

⑤ 活力ある産業が育ち
にぎわいと交流が
生まれるまち すずか・市民の暮らしや生活環境を支える活力ある産業の維持、発展のための取り組み
・市内外からの活発な交流を生み出し、にぎわいと活気を創出するための取組

将来都市像を支える自治体経営の柱

「将来都市像を支えるまちづくりの柱」の趣旨

・地域全体で協働、連携して進める自治力(市民力+行政経営能力)の強化を目指した取組



住民自治が重要です

これらの計画は、すべて私たち
の生活に関わります。地域づくり
など私たちの自治意識づくりと取
り組みに、現役世代と若い世代の
参加がより重要になります。10年
後、20年後を考えましょう。

伊勢型紙職人の今坂さんとお話をさせて頂いたとき、写真中央の文鎮のような道具が気になりました。これは道具通りに使用する道具を自作するためのものですが、手に入れるには苦労があることをお聞きし、この件を鈴鹿市ものづくり産業支援センターに情報提供し、センターから働きかけをして頂きました。

つくる道具にも
目を向けると
～伊勢型紙～

地域資源を考える
日々の活動での気付きから
アサリ

伊勢型紙と
アサリ

重要な意思決定を行うとともに、意見の概要とこれに対する市の考え方を公表する一連の手続です。(市HPより)ぜひ資料に目を通す意見をまとめたいたい意見を十分に考慮して必ず出してもどうですか?

鈴鹿沖は
特徴的な場所
～アサリ～さるのではなかと考
えます。アサリを鈴鹿の地域ブランドに
アサリを鈴鹿の地域ブランドに
アサリであります。アサリは、漁獲制限
を設けているが、多くの人が身近な伊勢湾
とアサリに関心を持つように、漁業者・研究者・行政が連携する体
育に取り入れるべきだと思います。

アサリですが、白子港にある三重県水産研究所によると、鈴鹿沖が伊勢湾の三重県側にとって、大きな母貝場となっている可能性があること

重要な計画が策定中

新たな中長期計画、地域包括ケア、都市マス 住民自治、現役世代がポイントに

新たな中長期計画

新しい中・長期計画は福祉・産業・文化・教育など、これからの大いな指針となるものです。計画の構成は、「基本構想、基本計画、実行計画」の3層構造になっていて、長期ビジョンとなる基本構想の期間は8年、前期と後期に分けそれぞれ4年となります。

(市民委員が素案づくりに)

現在、3回行われた市民委員会で基本となるもので、重要な位置づけになります。策定中の今、パブリックコメントでの意見はもうろんですが、進行途中の評価も重要になります。

この計画は、都市マスター・プランやその他のいろいろな計画にとつて基本となるもので、重要な位置づけになります。策定中の今、パブリックコメントでの意見はもうろんですが、進行途中の評価も重要になります。

国からはおおむね中学校区という方向性が示されていますが、鈴鹿市に住む私たちにとって、どのような枠組みで考えるべきかは、住民自治と深くつながっています。これからどのようないまし、これからどのようないまに暮らしていくのかといった都市のあり方も重要な視点です。

いま、高齢者福祉計画が策定され

ますが、策定中の新たな中・長期

改訂作業中の都市マスター・プランは、鈴鹿市の土地利用の方向性

などが記述されます。平成24年度

から作業に取り組み、地区別検討

会議やオープンハウスなどの手法

を取り入れ素案がつくられています。

①活力ある都市づくり、②防

災・減災の都市づくり、③コンペ

クトな住みよい都市づくり、④モ

ビリティの高い都市づくり、⑤水

と緑、景観を生かした都市づくり

の5つのテーマで構成され、それ

らを支える2つの視点として①地

域力をはぐくむ都市づくり、②ラ

イフサイクルコストを縮減する都

市づくりがあります。

都市マスでは、これからのみ

の姿が図でも示されます。パブコ

メの際はぜひご意見を。

鈴鹿沖は漁師の方々が漁獲制限など資源保護にも取り組まれ、現

在、市農林水産課と協働でケアシ

エルを取り入れるべきだと思います。

鈴鹿市として次世代にどうつな

げるか、多くの人が身近な伊勢湾

とアサリに関心を持つように、漁

業者・研究者・行政が連携する体

育に取り入れるべきだと思います。

アサリですが、白子港にある三重

県水産研究所によると、鈴鹿沖が

伊勢湾の三重県側にとって、大き

な母貝場となっている可能性があ

ることです。

アサリですが、白子港にある三重

県水産研究所によると、鈴鹿沖が

伊勢湾の三重県側にとって、大き

な母貝場となっている